滝・柴垣海岸G遺跡

一般国道249号交通安全施設等整備工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

石川県立埋蔵文化財センター

滝・柴垣海岸G遺跡

一般国道249号交通安全施設等整備工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

石川県立埋蔵文化財センター

第１調査区全景（南より撮影）

第１調査区Ｃ～Ｅグリッド炉跡検出状況（北より撮影）

例　言

1　本書は一般国道249号交通安全施設等整備工事に係る石川県羽咋市滝・柴垣海岸G遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は石川県土木部道路整備課との協議に基づき、同課より依頼を受けた石川県立埋蔵文化財センターが実施した。

3　現地調査は平成元年7月24日から同年7月31日にかけて実施し、福島正実（石川県立埋蔵文化財センター主事）が担当した。

4　調査費用は県道路整備課が負担した。

5　遺物整理（記名・分類・接合、実測、トレース）は㈳石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。

6　本書の執筆は、遺物について冨田和気夫（石川県立埋蔵文化財センター主事）が、その他を福島が行った。なお、挿図、図版の指示は以下の通りである。

(1)　方位は公共座標系による。

(2)　遺物図版の縮尺は不同である。

(3)　遺構記号を使用する場合は以下の通りとした。

SB：掘立柱建物　SD：溝　SE：井戸　SI：竪穴　SX：その他の遺構

7　本発掘調査で出土した埋蔵文化財および記録資料は石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　次

Ⅰ　位置と環境……1

Ⅱ　調査の経緯と経過……1

Ⅲ　調査の概要……2

I　位置と環境

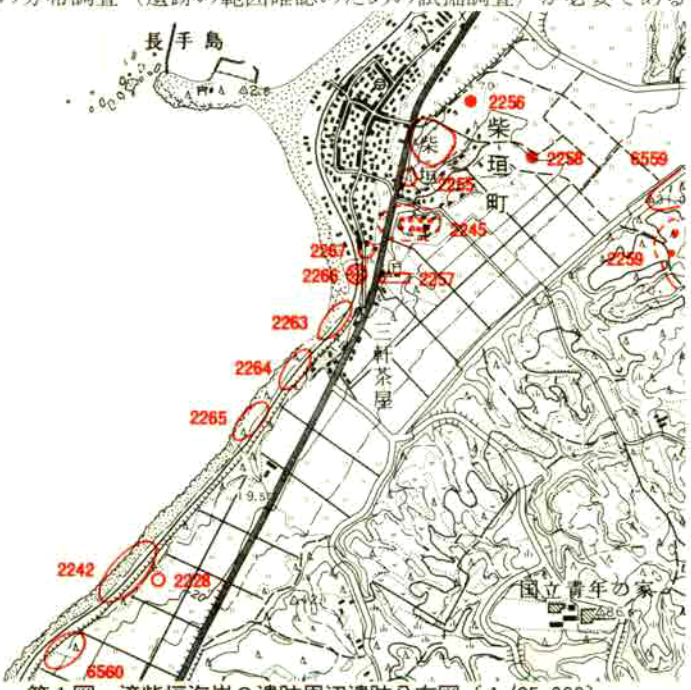
能登半島の基部に所在する羽咋市は、邑知潟を中心に擁した豊かな生産基盤と交通の要衝としての機能によって、原始・古代より能登における拠点の一つとして位置づけられてきた。

羽咋地域は南北を宝達・石動山系、眉状山系に挟まれ、東方にはいわゆる邑知地溝帯の名で著名な低地帯が延びている。また日本海に接する海岸部には典型的海跡湖である邑知潟を生み出した海岸砂丘が発達している。このような変化に富む地形的特徴によって、当地は能登有数の遺跡密集地帯でありながら、地域内においてもその分布に著しい遍在性がみられる。

日本海に大きく突き出た滝岬以北には、眉状山系西端をなす２ないし３段の海岸段丘が発達している。その中でも標高20～30mの下位段丘面には様々な遺跡が分布しており、本段丘前面の段丘崖裾が岩礁海岸を形成する滝・柴垣海岸では、古代の製塩遺跡が各地で発見されている。滝・柴垣海岸Ｇ遺跡もこれら製塩遺跡群の一つであり、現在陸繋島と化している長手島を前面に望む景勝地に位置している。本遺跡の範囲や遺存状況については、立地している段丘崖前面を切り盛りする形で国道249号線が建設されているために不明な点が多い。

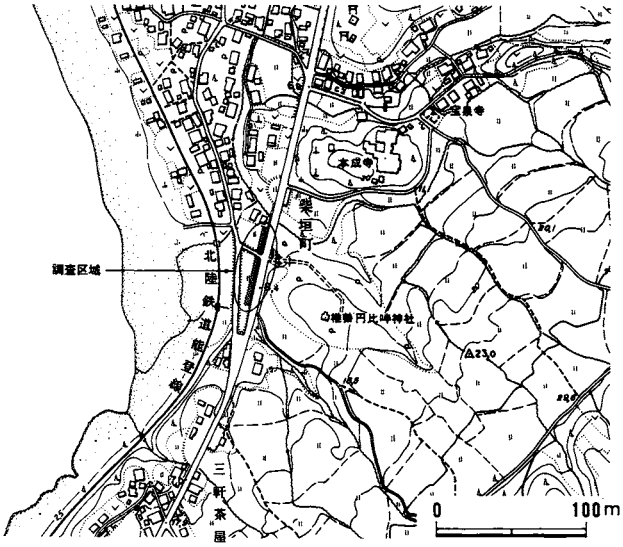
II　調査の経緯と経過

平成元年、一般国道249号線を通行する歩行者、自転車の安全確保のために自転車歩道を整備する交通安全施設等整備（１種）工事が、周知の埋蔵文化財包蔵地滝・柴垣海岸Ｇ遺跡付近で施工されることとなった。県教育委員会では前年度に行った事前調整で、当該事業の実施に際しては事前の分布調査（遺跡の範囲確認のための試掘調査）が必要である旨を事業担当課である県土



2228　滝白尾塚古墳
2242　滝・柴垣海岸Ｄ遺跡（製塩跡、時期不詳）
2245　柴垣円山１～10号墳
2255　柴垣観音山古墳
2256　柴垣ごぜん塚古墳
2257　柴垣親王塚古墳
2258　柴垣ところ塚古墳
2259　柴垣まつかわ堤タタラ跡群（製鉄跡、不詳）
2263　滝・柴垣海岸Ａ遺跡（製塩跡、古墳・平安）
2264　滝・柴垣海岸Ｂ遺跡（製塩跡、時期不詳）
2265　滝・柴垣海岸Ｃ遺跡（製塩跡、時期不詳）
2266　滝・柴垣海岸Ｇ遺跡（製塩、平安）
2267　滝・柴垣海岸Ｈ遺跡（散布地、時期不詳）
6559　柴垣マツカワ遺跡（散布地、奈良・平安）
6560　滝・柴垣海岸Ｉ遺跡（散布地、時期不詳）

第１図　滝柴垣海岸Ｇ遺跡周辺遺跡分布図〔１/25,000〕



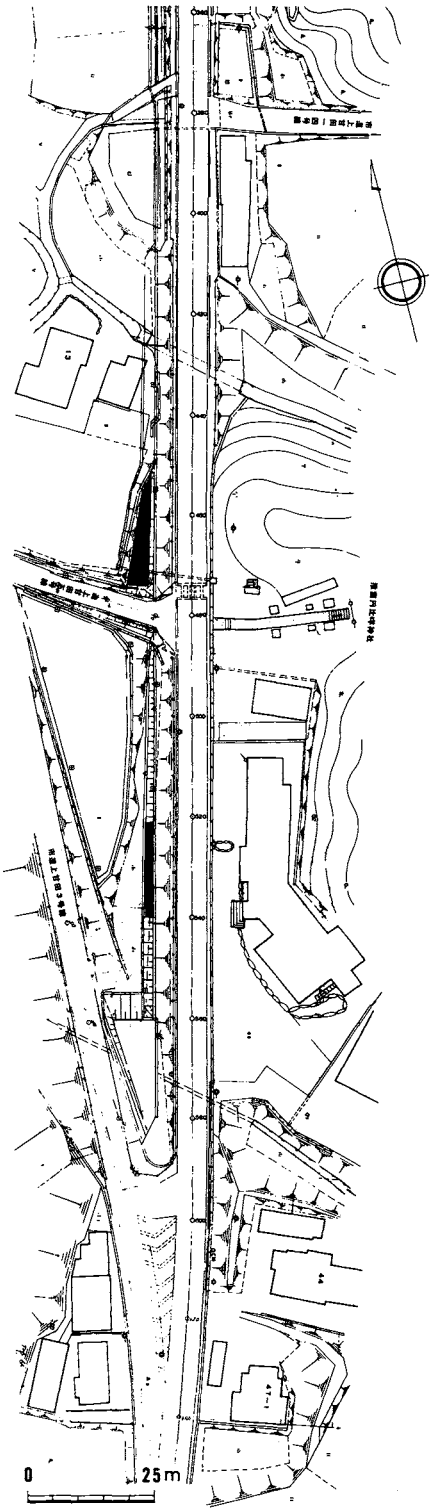
第２図　遺跡周辺地形図〔１/10,000〕

木部道路整備課に回答していた。平成元年６月29日、同課からの依頼を受けて当センターは工事予定地約1,200㎡を対象に分布調査を実施、羽咋市柴垣町10字31－１から７字62－１にかけて古代の製塩土器包含層を発見、これが周知の埋蔵文化財包蔵地滝・柴垣海岸Ｇ遺跡の一部であることを確認した。直ちに取り扱いについて協議が行われ、既に工事が発注済みであることから速やかに発掘調査を実施することとなり、同年７月24日から７月31日にかけて約100㎡の現地調査を実施した。また、出土遺物整理、記録資料の整理を平成２年度までに実施した。

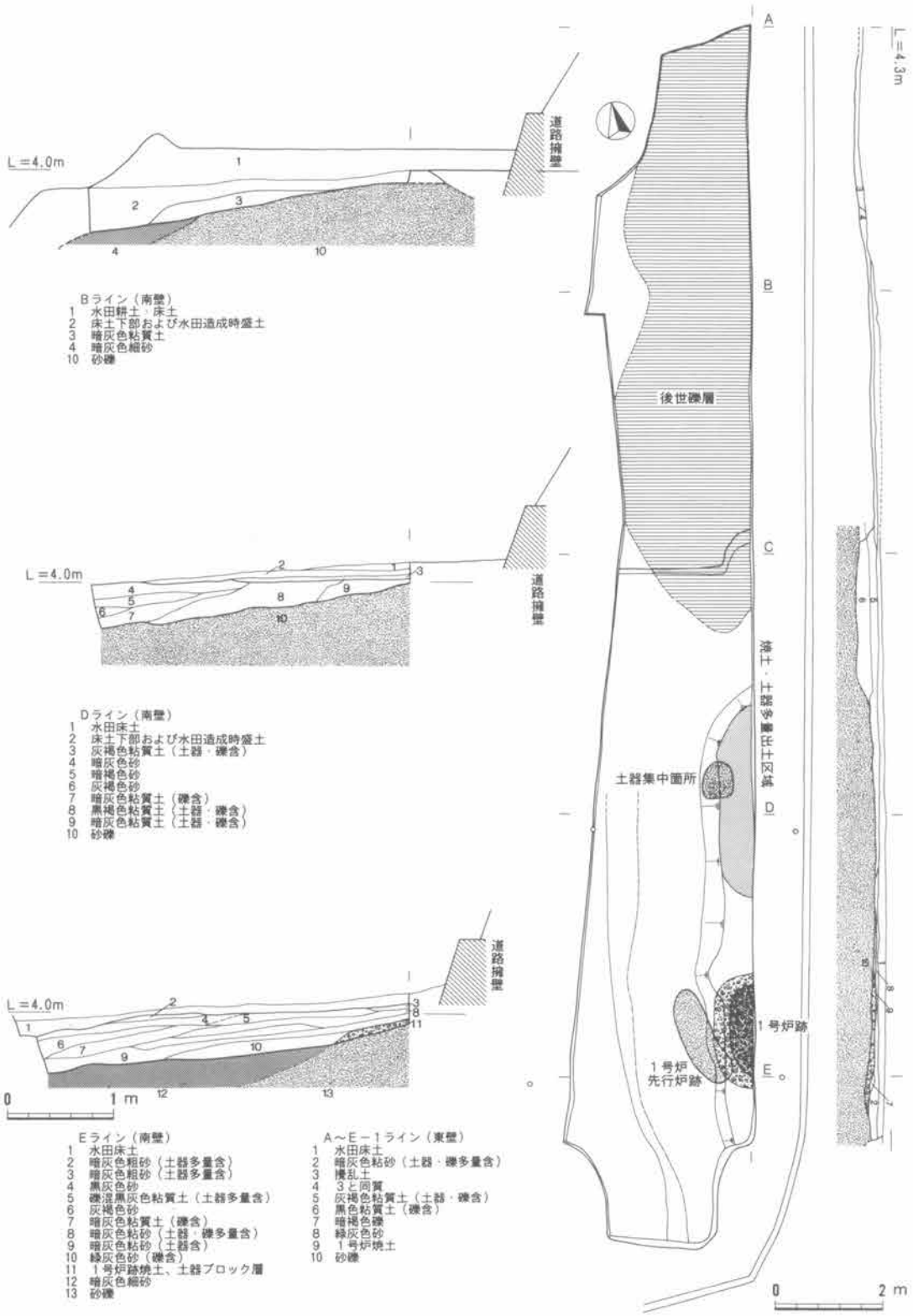
III　調査の概要

１　調査区の名称、グリッドの設定

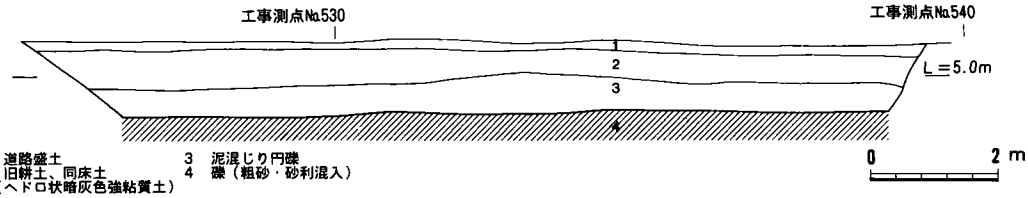
分布調査結果に基づき調査区域を２箇所設定した。第１調査区は椎葉円比咩神社前に接続する市道上甘田５号線以北、第２調査区は同市道以南であり、いずれも現国道の海寄り（西側）に新たに用地取得した水田および荒れ地である。調査区に接して現国道の法面や擁壁が存在するために調査区域は限定されたものとなった。特に第２調査区は調査の安全確保が困難なために部分的な試掘となったが、結果的に遺構は検出されず、出土遺物も微量であった。各調査区の区割りにあたっては、第１調査



第３図　調査区域位置図〔１/1,500〕



第４図　第１調査区平面図、縦断面図〔１/120〕、同調査区横断面図〔１/60〕



第５図　第２調査区縦断面図〔１/120〕

区は軸線を道路線形と一致させ、北方より５ｍ単位でＡ～Ｅグリッドに区分した。第２調査区は、工事用測点で延長方向を表示した。

２　遺構の概要

第１調査区は段丘崖裾部の緩斜面に相当し、遺構面の標高は３．５～４ｍを測る。調査区西側（海寄り）は現水田の造成によって大きく削平を受けている。調査区の基盤層は山寄りの過半が礫主体の比較的しっかりした砂礫層であるのに対し、海よりは海砂の堆積とみられる細砂層で形成されており、製塩遺跡の造営当時はかなり海岸線に接近していたものと推定される。

Ｃ～Ｅグリッドにかけては耕土・床土下に厚さ20～50cmの遺物包含層が形成されているが、Ａ，Ｂグリッドでは濃密な遺物包含層は存在せず、砂礫からなる地山緩斜面上を後世の礫層が広く覆っている。縦断面図に示したようにＣグリッド中央付近以北は一段低くなっていることからみても煎熬区域はＣグリッド以南に限定されるものと推定される。海側に緩く傾斜する遺物包含層上面が現水田造成によって水平に削平されていたため、遺構検出段階において各層の境界線をとらえて溝と誤認し、遺物取り上げにおける注記を第１号溝と記載していたが全て包含層であることを明記し、訂正する。Ｃ～Ｅグリッドの遺物包含層は横断面図に示したように土質により細分したが、基盤直上部を除いて、人為的な土器集中箇所、炉跡等の遺構は検出されなかった。また、供伴して出土した須恵器、土師器も遍在性は確認されなかった。

比較的厚い遺物包含層の最下部、基盤直上からは幅８ｍ以上のテラス状の平坦面がみられ、その前端で製塩炉跡と考えられる焼土面が２箇所検出された。焼土層の最大厚は10cm、いずれの焼土面も製塩土器細片が密に含まれており、外縁部は含有する土器細片が若干少なく焼土が多くなっている。調査区が限定されているためにテラス状平坦面の全容は不詳ではあるが、煎熬区域の遺構の一端を示す意味で留意すべき遺構である。

第２調査区は地下1.5mまでのトレンチ調査の結果、遺構は確認されず、遺物についても摩耗した製塩土器細片が盛土ないし流土中に微量認められたのみであった。深部の調査を断念したこともあって製塩関連遺構の有無については確認できなかった。

３　出土遺物

(1)　須恵器、土師器等（第６～８図）

調査によって出土した製塩土器以外の土器類には、須恵器、土師器、珠洲焼、弥生土器がある。須恵器は有台坏を主体に、無台坏、壺類、長頸瓶、横瓶、甕などの器種が見られ、供膳器と貯蔵器で構成される。いずれも８世紀末から９世紀前半に位置づけられるものである。土師器は少量ながら、有台椀と甕が出土している。有台椀は10世紀頃の遺物であるが、甕は概ね須恵器と同時

期のものと見て矛盾はない。珠洲焼は甕片と円盤形陶製品、弥生土器は底部片が出土した。

(2) 製塩土器（第９～13図）

製塩土器はパンケース25箱分が出土しており、尖底と平底の二種に加え、数タイプの支脚がみられる。いずれも細片化しているため全形を知りうるものはない。

尖底形土器（44～50）には底部を絞って５cm程度と長い棒状脚をつくり出したもの（46）、絞りが弱く脚長が短いもの（47）、強く絞って短い棒状脚をつけたもの（48，49）がある。尖底土器の出土数はごくわずかであり、全体の５％に満たない。

一方、大多数を占める平底形土器は底径10cm前後の小型品から20cmを超える大型品まで各種の法量がある。口縁部から体部の資料では、口縁端部の面取りや内面のハケ調整の有無に差があり、底部破片資料では、主に底部周縁の成形技法に次のようなバラエティーがある。

１類（77，90）　底面が平滑でなく、凹凸を有し稲藁圧痕がつく。側縁は丸く、外面に成形時の指圧痕を残している。器厚は２cm前後と肉厚である。

２類　成形台の上で底部成形をおこなうため、底部の底面や側縁に平滑な圧痕面を残すもの。

２－１類（68～70，72，79，84，88）　上面に平滑面を持つ成形台を利用する。土器底面に平滑な圧痕を残すが、外側縁は下端まで指圧が及ぶため、成形台の立体的な形状を知る手がかりは無い。体部最下段粘土紐接合時に成形台で外面支持していない成形法である点、以下の類と異なる。

２－２類（67，71，80，87）　円形の皿状成形台内で粘土を型押しして底部を成形する。圧痕面は底面だけでなく外側縁にも残るが、成形台端部は圧痕として残らない。底部側縁の圧痕面の範囲は数ミリから２cm程度まであり、直立気味のものと丸味を有するものが見られる。

２－３類（73～76，78，81～82，85，86）　やはり円い皿状成形台で型押しするが、成形台側縁部の上端を覆うように粘土をのせているため、成形台の痕跡が土器底部外側縁に段状の圧痕となって残る。成形台側縁部の形状は多様で、成形台の深さと径の大小が概ね対応する。土器底部外側縁には体部最下段粘土紐の内傾接合に伴う指圧痕が認められず、少なくともこの段階までは成形台を装着した状態であった可能性がある。なお、73、91は口縁部が破損した皿状成形台を使用しており、破断面の圧痕から立ち上がり部の厚さ７mm程度の薄手の木皿であったことがわかる。

以上の４分類のうち、２－１類と２－３類がほぼ同率で出土平底土器の大半を占め、２－２，２－３類が、いわゆる「底部型作り」の土器である。各類を小嶋芳孝氏による北陸の平底製塩土器分類[1]と対比すると、１類がⅠ式１類、２－１類がⅡ式２類、２－３類がⅡ式５類に該当しよう。Ⅰ式１類は８世紀前半、Ⅱ式２類のうち本報告例のような底径15cm前後のものは８世紀中葉から後葉に多く、Ⅱ式５類も同様の時期に比定されている。今回出土した須恵器は８世紀末から９世紀前半の時期に限られており、これが製塩土器の所属時期を反映するのであれば、年代観の一部に若干の修正を促す資料にもなろうが、いずれも包含層出土であるため今後の資料の蓄積を待ちたい。

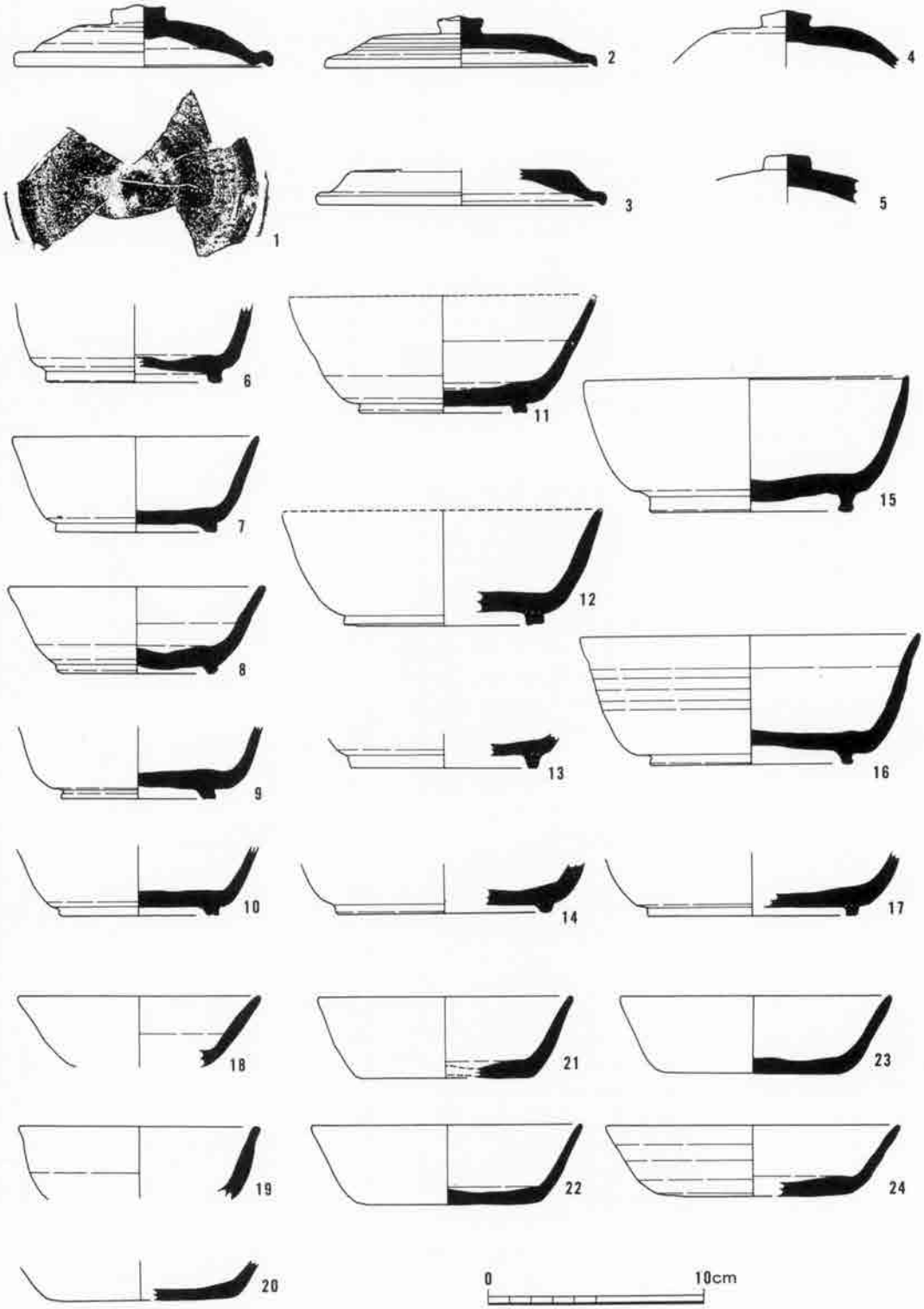
支脚には棒状中実形、糸巻形、筒形の３種が確認できる。棒状中実支脚は端部が膨らむもの、上げ底状のものがあり、95にはヘラ記号が刻まれている。

1　小嶋芳孝「平底形製塩土器の検討」『考古学と技術』同志社大学考古学シリーズ刊行会（1988）、「製塩土器の検討」『寺家遺跡発掘調査報告書Ⅱ』石川県立埋蔵文化財センター（1988）

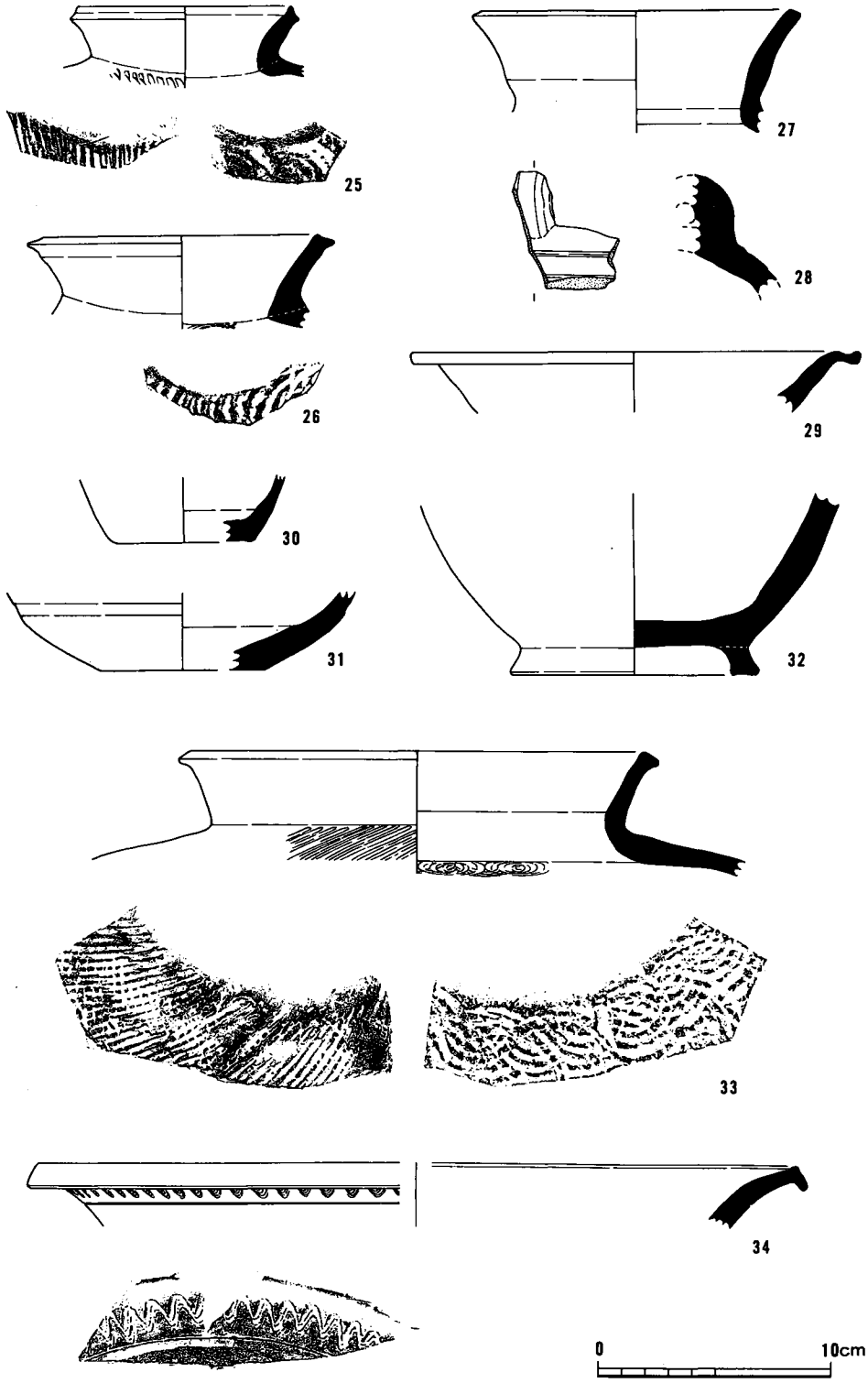
第1表　滝・柴垣海岸G遺跡出土遺物観察表

挿図	番号	種別	器種	法量（cm）等	出土地点	遺構	層位	実測番号
1	1	須恵器	坏蓋	口径11.7、器高2.8、内面にヘラ記号	D－1		包含層（黒礫粘土）	24
					A－3		旧耕土～礫層上面	24
					C－1	テラス上面		24
	2	須恵器	坏蓋	口径12.6、器高2.4	D－1		包含層（黒礫粘土）	28
	3	須恵器	坏蓋	口径13.4	D－E間畦			41
	4	須恵器	坏蓋		D－1		包含層1	10
					C－1		包含層（黒礫粘土）	10
	5	須恵器	坏蓋		E－1		包含層1	11
	6	須恵器	有台坏	高台径8.1	C－1		包含層1	1
	7	須恵器	有台坏	口径11.3、高台径7.4、器高4.4、底部内面磨滅	D－1		包含層1	5
	8	須恵器	有台坏	口径11.7、高台径7.4、器高4.0、底部内面磨滅	C－D		地山直上	39
	9	須恵器	有台坏	高台径7.1	E－1		包含層1	4
	10	須恵器	有台坏	高台径7.3	D－1		包含層1	7
	11	須恵器	有台坏	口径14.2、高台径7.8、器高5.4	C－1		包含層1	7
	12	須恵器	有台坏	口径14.8、高台径9.3、器高5.3、底部内面磨滅	D－E間畦			40
	13	須恵器	有台坏	高台径8.7	D－1		包含層1	8
	14	須恵器	有台坏	高台径10.0、底部内面磨滅	C－1	テラス面中央1/3	土器炭混じり黒色土	19
	15	須恵器	有台坏	口径14.8、高台径9.3、器高6.1	D－1		包含層1	6
	16	須恵器	有台坏	口径15.5、高台径9.3、器高5.9、底部内面磨滅	C－1	テラス面中央1/3	土器炭混じり黒色土	18
	17	須恵器	有台坏	高台径9.6	C－1		包含層1	3
	18	須恵器	無台坏	口径11.1	D－1		包含層1	9
	19	須恵器	無台坏	口径11.0	D－E間畦			42
	20	須恵器	無台坏	底径8.7、底部内面磨滅	C－1	テラス面	上部黒色盛土	21
	21	須恵器	無台坏	口径11.8、底径8.0、器高3.7	C－1		包含層（黒礫粘土）	27
	22	須恵器	無台坏	口径12.5、底径8.7、器高3.7、底部内面磨滅	C－1	テラス面	上部黒色盛土	22
	23	須恵器	無台坏	口径12.3、底径8.0、器高3.6、底部内面磨滅	C－1	テラス面	上部黒色盛土	20
	24	須恵器	無台坏	口径13.4、底径8.8、器高3.3	C－1	テラス面	上部黒色盛土	23
2	25	須恵器	横瓶	口径9.8	E－1		包含層1	13
	26	須恵器	横瓶	口径13.2	E－1		包含層1	12
	27	須恵器	横瓶	口径14.0	B－1		旧床土～礫層上面	38
	28	須恵器	壺		C－1	テラス面		26
	29	須恵器	広口瓶	口径19.2	D－1		包含層（礫）	29
	30	須恵器	小壺	底径6.0	C－1		包含層1	15
	31	須恵器	鉢	底径7.0、外面ヘラ削り	D－1		包含層（礫）	30
	32	須恵器	長頸瓶	高台径10.7	D－1		包含層（礫）	31
	33	須恵器	甕	口径20.6	D－1		包含層1	14
	34	須恵器	甕	口径32.5、口縁外面に波状文	C－1		包含層（礫）	25
3	35	土師器	有台椀	高台径5.9	D－1		包含層（礫）	32
	36	土師器	甕	底径7.8	D－1		包含層（礫）	35
	37	弥生土器	甕	底径5.5	D－1		旧床土～礫層上面	37
	38	土師器	甕	口径21.4	D－1		包含層（礫）	33
	39	土師器	甕	口径23.5	E－1		包含層1	16
	40	土師器	甕	口径27.5	E－1		包含層1	17
	41	土師器	甕	口径29.5	D－1		包含層（礫）	34
	42	珠洲焼	甕		A－4		旧床土～礫層上面	44
	43	珠洲焼	円盤形陶製品	5.6×5.8	A－4			43
4	44	製塩土器	尖底	口径13.4、端部面取り、内面横ナデ	C－1	テラス面東端	下層礫混じり	83
	45	製塩土器	尖底		E－11		包含層1	50
	46	製塩土器	尖底	尖底長5.1	D－1		包含層1	76
	47	製塩土器	尖底	尖底長4.6	D－1		包含層1	101
	48	製塩土器	尖底	尖底長3.3	D－1		包含層1	78

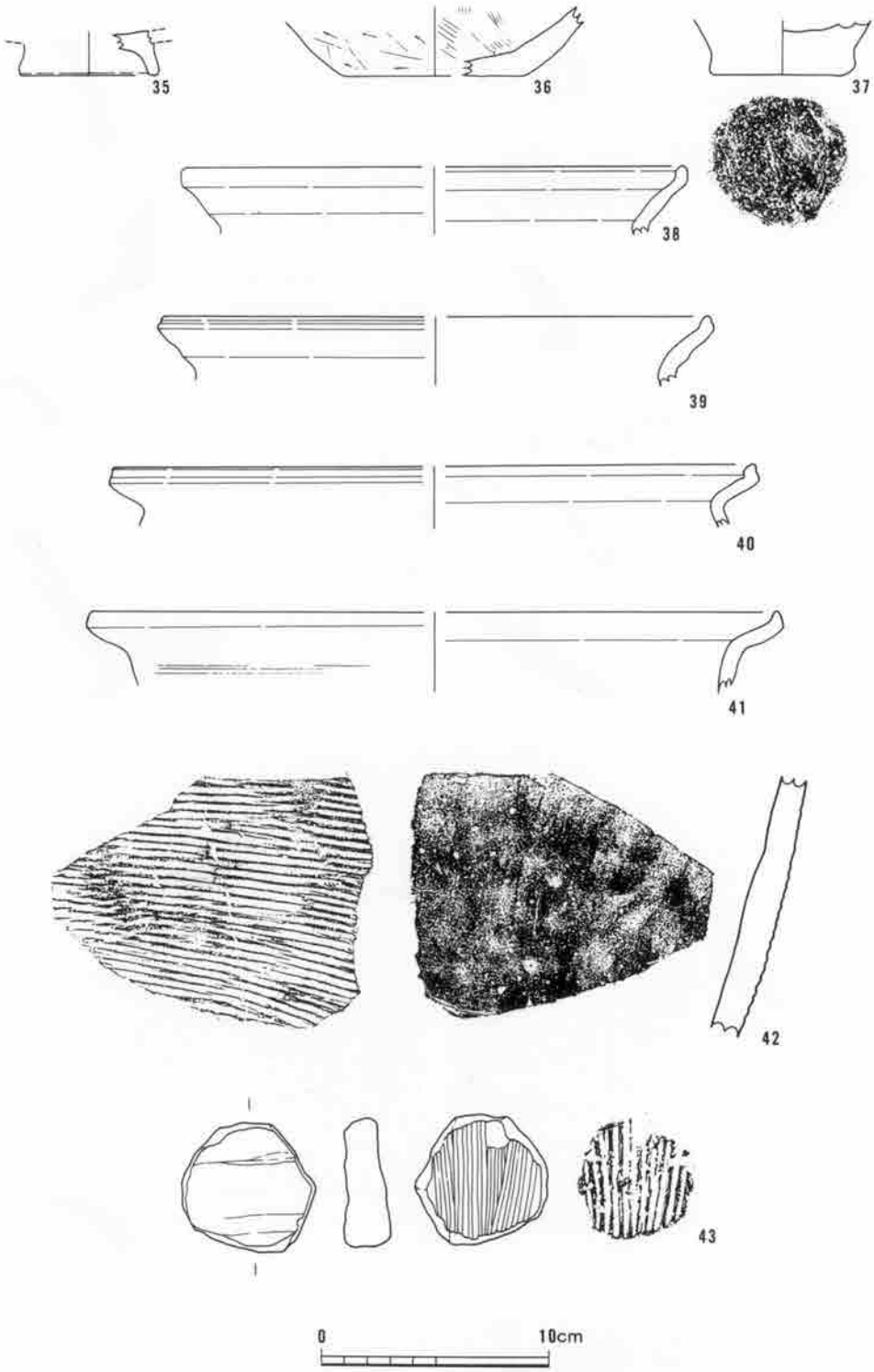
4	49	製塩土器	尖底	尖底長2.9	D－1		包含層1	77
	50	製塩土器	尖底	内面にヘラ工具痕	E－1		包含層1	79
	51	製塩土器	平底	端部面取り、内面横ハケ	C－1	テラス面北側1/3	土器混じり黒色粘土	92
	52	製塩土器	平底	端部面取り、内面横ハケ	D－1		包含層1	51
	53	製塩土器	平底	端部面取り	C－1		包含層（黒色礫）	93
	54	製塩土器	平底	内面横ナデ	E－1		最下層	90
	55	製塩土器	平底	復元口径26、内面横ナデ	E－1			53
	56	製塩土器	平底	復元口径27、内面横ハケ	D－1		包含層1	52
	57	製塩土器	平底	復元口径27、端部面取り、内面横ハケ	E－1		包含層1	55
5	58	製塩土器	平底	復元口径33、内面横ハケ	D－1			56
	59	製塩土器	平底	復元口径35、端部面取り、内面横ナデ	E－1		最下層	91
	60	製塩土器	平底	復元口径34、内面横ナデ	E－1		包含層1	54
	61	製塩土器	平底	復元口径32、内面横ハケ後横ナデ	D－1		包含層1	45
	62	製塩土器	平底	内面横ハケ	E－1		包含層1	49
	63	製塩土器	平底	内面横ハケ	D－1		包含層1	47
	64	製塩土器	平底	内面横ハケ	D－1		包含層1	46
6	65	製塩土器	平底	内面横ハケ	D－1		包含層1	48
	66	製塩土器	平底	内面横ナデ	E－1			89
	67	製塩土器	平底	底径10、成形台圧痕[2-2類]、内面ナデ	A－1		旧床土～礫層上面	88
	68	製塩土器	平底	底径12、成形台圧痕[2-1類]	D－1		包含層1	63
	69	製塩土器	平底	底径12、成形台圧痕[2-1類]、内面ナデ	－1		包含層（礫）	95
	70	製塩土器	平底	底径13、成形台圧痕[2-1類]	D－1		包含層1	61
	71	製塩土器	平底	底径13、成形台圧痕[2-2類]、内面ナデ	D－1		包含層1	64
	72	製塩土器	平底	底径13、成形台圧痕[2-1類]、内面ナデ	C－1		包含層1	57
	73	製塩土器	平底	底径10～13、成形台圧痕[2-3類]、台破損痕跡	D－1		包含層（礫）	94
	74	製塩土器	平底	底径10～13、成形台圧痕[2-3類]、内面工具ナデ	D－1		包含層1	74
	75	製塩土器	平底	底径14～16、成形台圧痕[2-3類]、内面ナデ	D－1		包含層1	66
	76	製塩土器	平底	底径14、成形台圧痕[2-3類]、内面ナデ	D－1		包含層1	72
	77	製塩土器	平底	底径14、[1類]	C－1		包含層1	59
7	78	製塩土器	平底	底径17～19、成形台圧痕[2-3類]、内面ハケ	D－1		包含層1	71
	79	製塩土器	平底	底径16、成形台圧痕[2-1類]、内面ハケ	E－1		包含層（礫）	96
	80	製塩土器	平底	底径18、成形台圧痕[2-2類]	D－1		包含層1	58
	81	製塩土器	平底	底径16～19、成形台圧痕[2-3類]	D－1		包含層1	69
	82	製塩土器	平底	底径18～21、成形台圧痕[2-3類]	D－1		包含層1	70
	83	製塩土器	平底	底径16～20、成形台圧痕[2-3類]	D－1		包含層（礫）	97
	84	製塩土器	平底	底径20、成形台圧痕[2-1類]、内面ナデ	D－1		包含層1	60
	85	製塩土器	平底	底径20～21、成形台圧痕[2-3類]	D－1		包含層1	73
	86	製塩土器	平底	底径22～25、成形台圧痕[2-3類]	D－1		包含層（礫）	98
	87	製塩土器	平底	底径22～25、成形台圧痕[2-2類]、ハケ	E－1		包含層（礫）	99
	88	製塩土器	平底	底径27、成形台圧痕[2-1類]	D－1		包含層1	62
8	89	製塩土器	平底	成形台圧痕[2類]、内面に指頭圧痕多	D－1		包含層1	67
	90	製塩土器	平底	底面に稲藁痕[1類]	D－1		包含層1	68
	91	製塩土器	平底	成形台圧痕[2-3類]、成形台の破損痕跡木目	D－1		包含層1	65
	92	支脚	棒状中実	端部径6.2、体部径4.2	C－1	テラス面北側1/3	礫混じり黒色粘土	86
	93	支脚	棒状中実	端部径7.9、体部径6.0	D－1		包含層1	80
	94	支脚	棒状中実	端部径6.2、体部径4.3	C－1	テラス面東端下	礫混じり黒色粘土	87
	95	支脚	棒状中実	体部径4.4	D－1		包含層1	81
	96	支脚	棒状中実	端部径6.5、体部径5.1、側面にヘラ記号	D－1		包含層1	82
	97	支脚	糸巻形穿孔	端部径7.0	C－1	テラス面北側1/3	礫混じり黒色粘土	85
	98	支脚	糸巻形穿孔	端部径9.0	C－1	テラス面北側1/3	礫混じり黒色粘土	84
	99	支脚	筒形	端部径7.2	D－1		包含層1	75
	100	支脚	筒形	端部径7.9	C－1		包含層（礫）	100



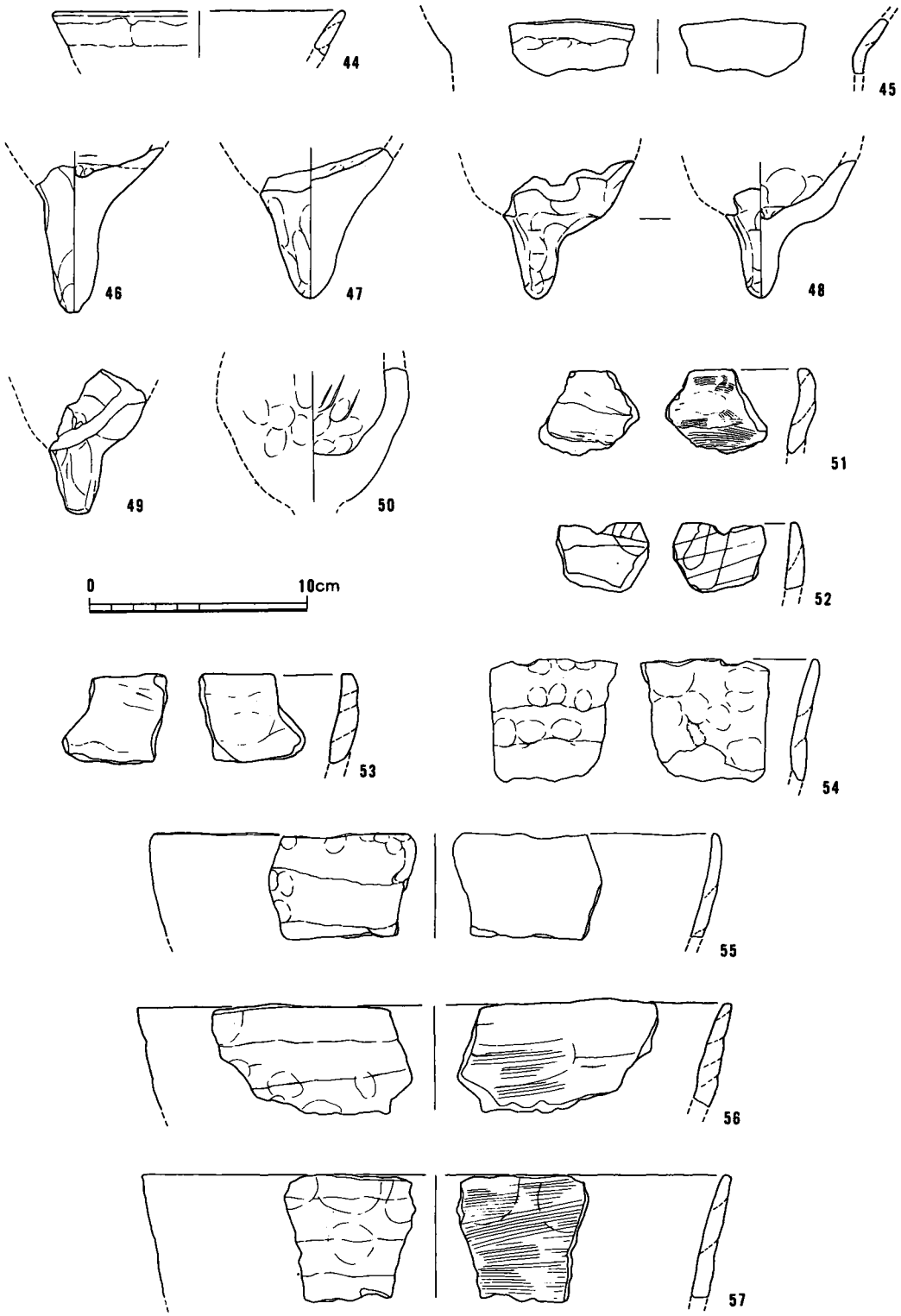
第６図　出土遺物実測図（１）〔１/３〕



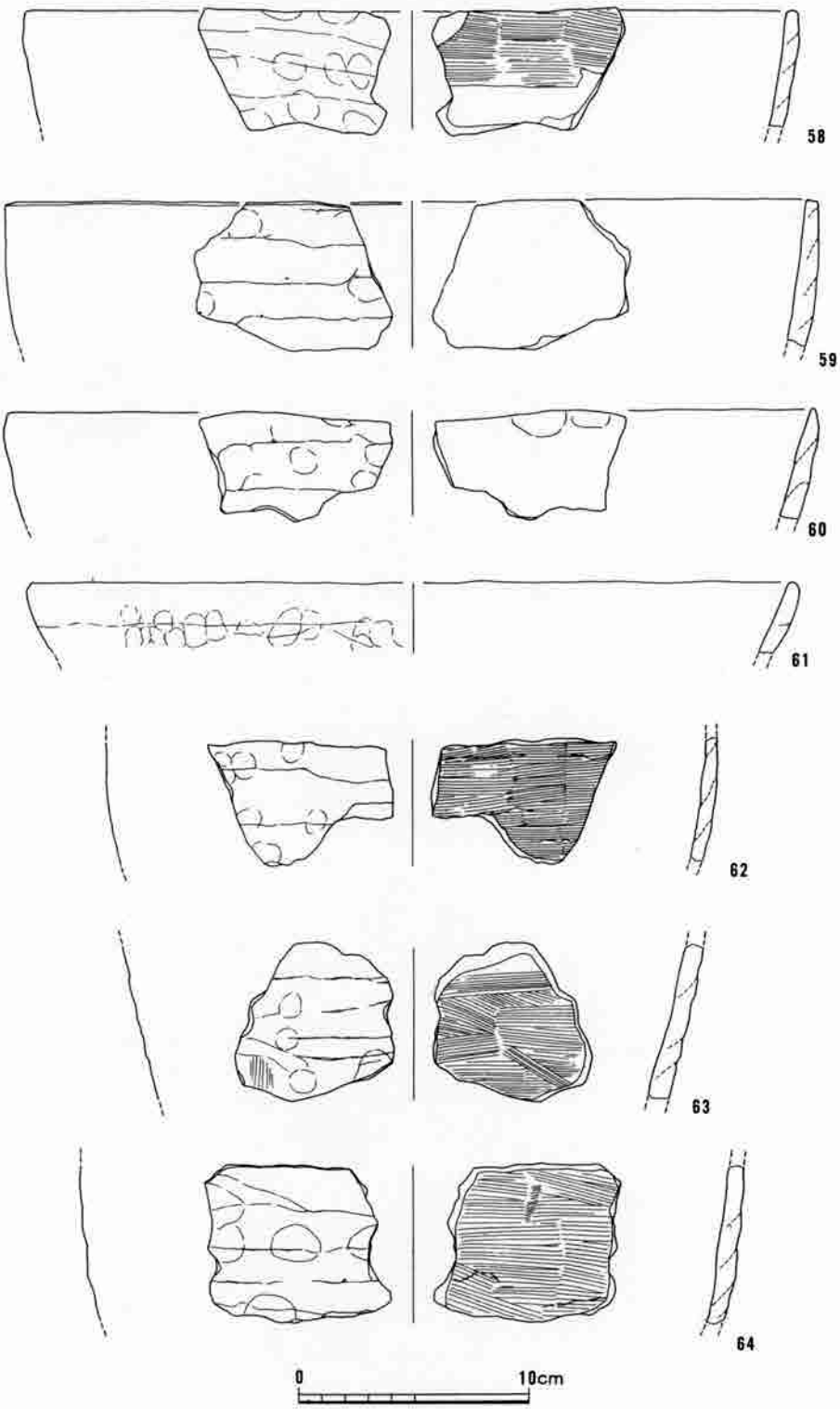
第７図　出土遺物実測図（２）〔１/３〕



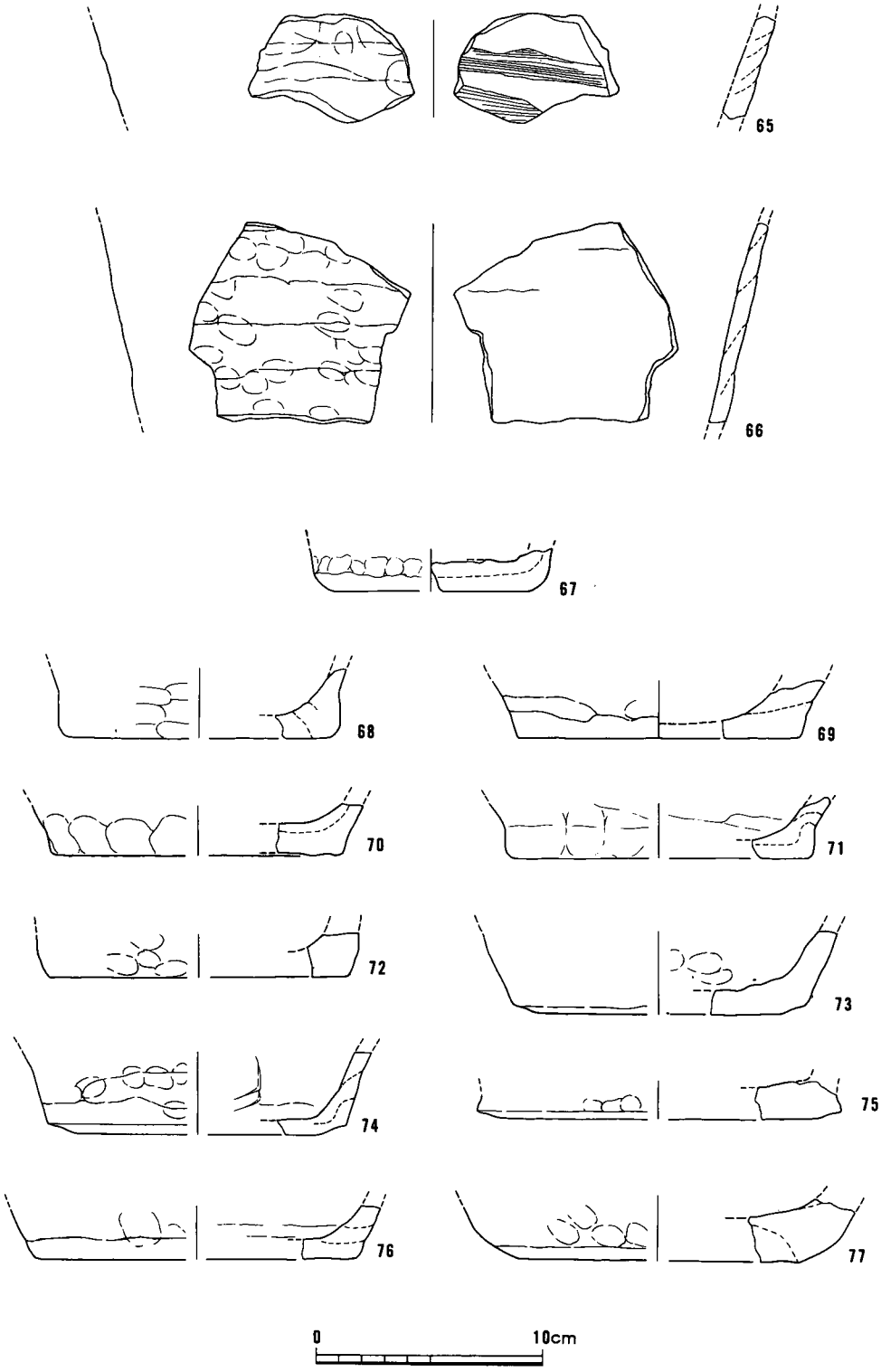
第８図　出土遺物実測図（３）〔１/３〕



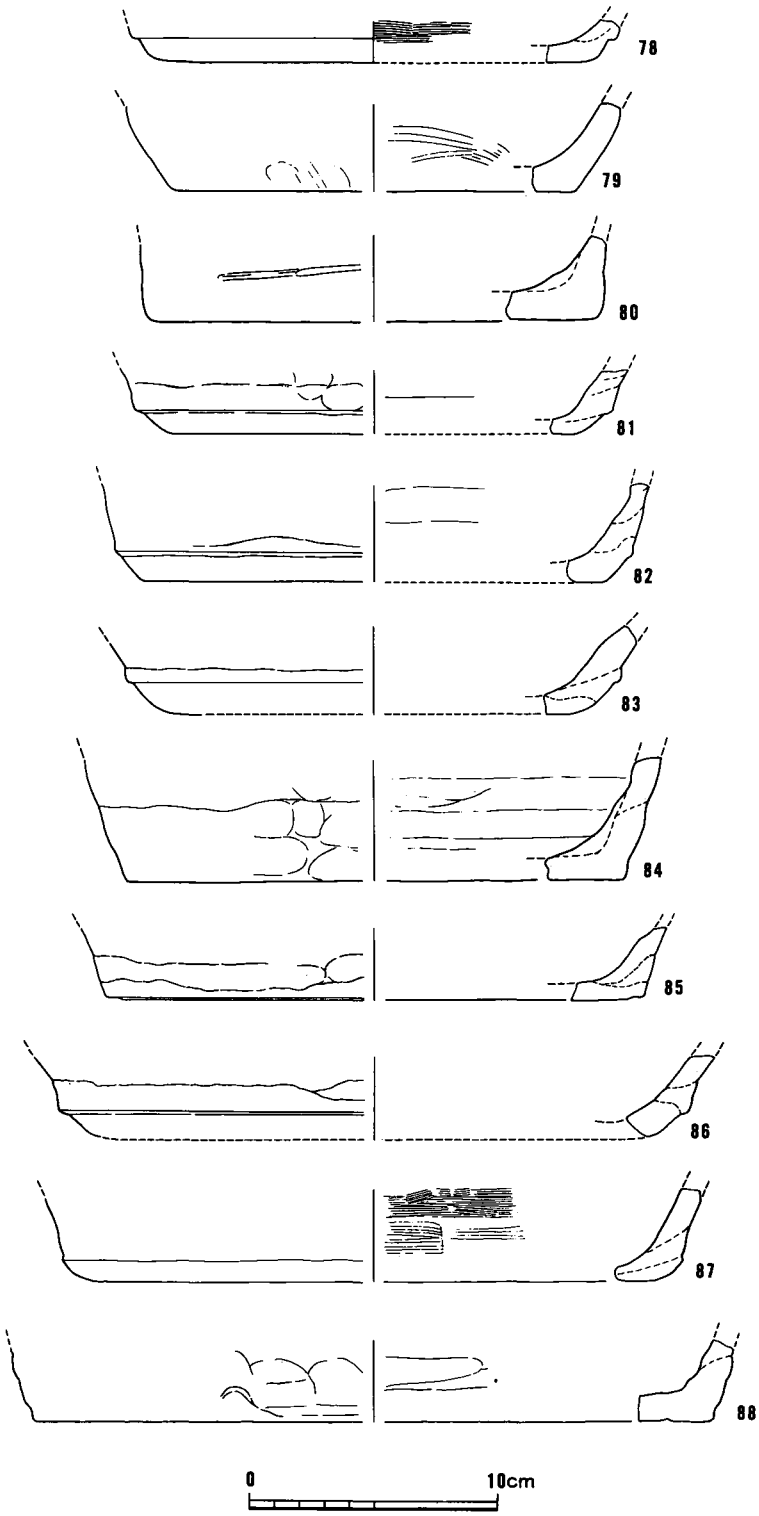
第９図　出土遺物実測図（４）〔１/３〕



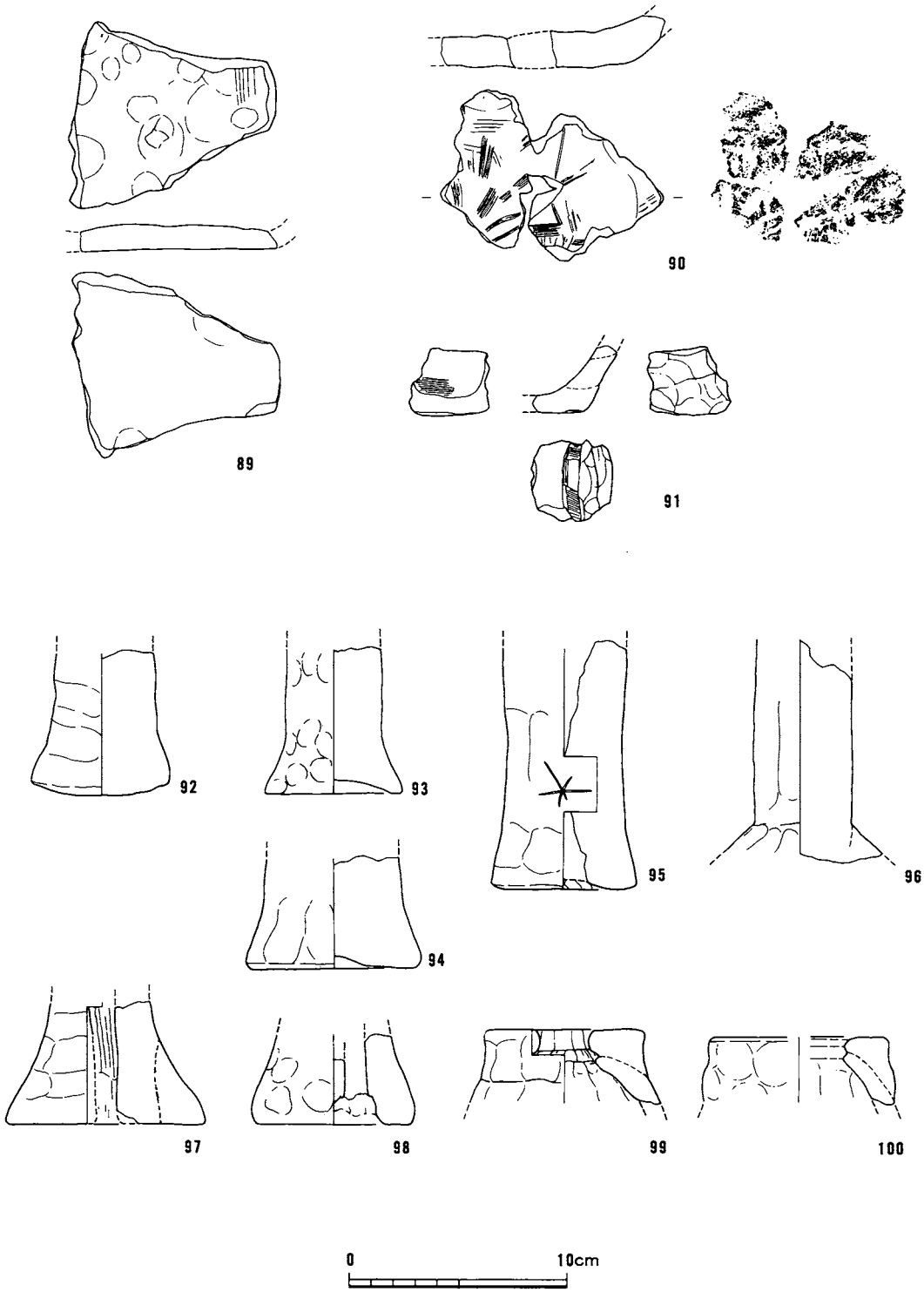
第10図　出土遺物実測図（5）〔1/3〕



第11図　出土遺物実測図（6）〔1/3〕



第12図　出土遺物実測図（7）〔1/3〕



第13図　出土遺物実測図（8）〔1/3〕

調査区遠景（北より撮影）

第2調査区全景（南より撮影）

図版2

第1調査区表土除去段階全景（南より撮影）

第1調査区全景（南より撮影）

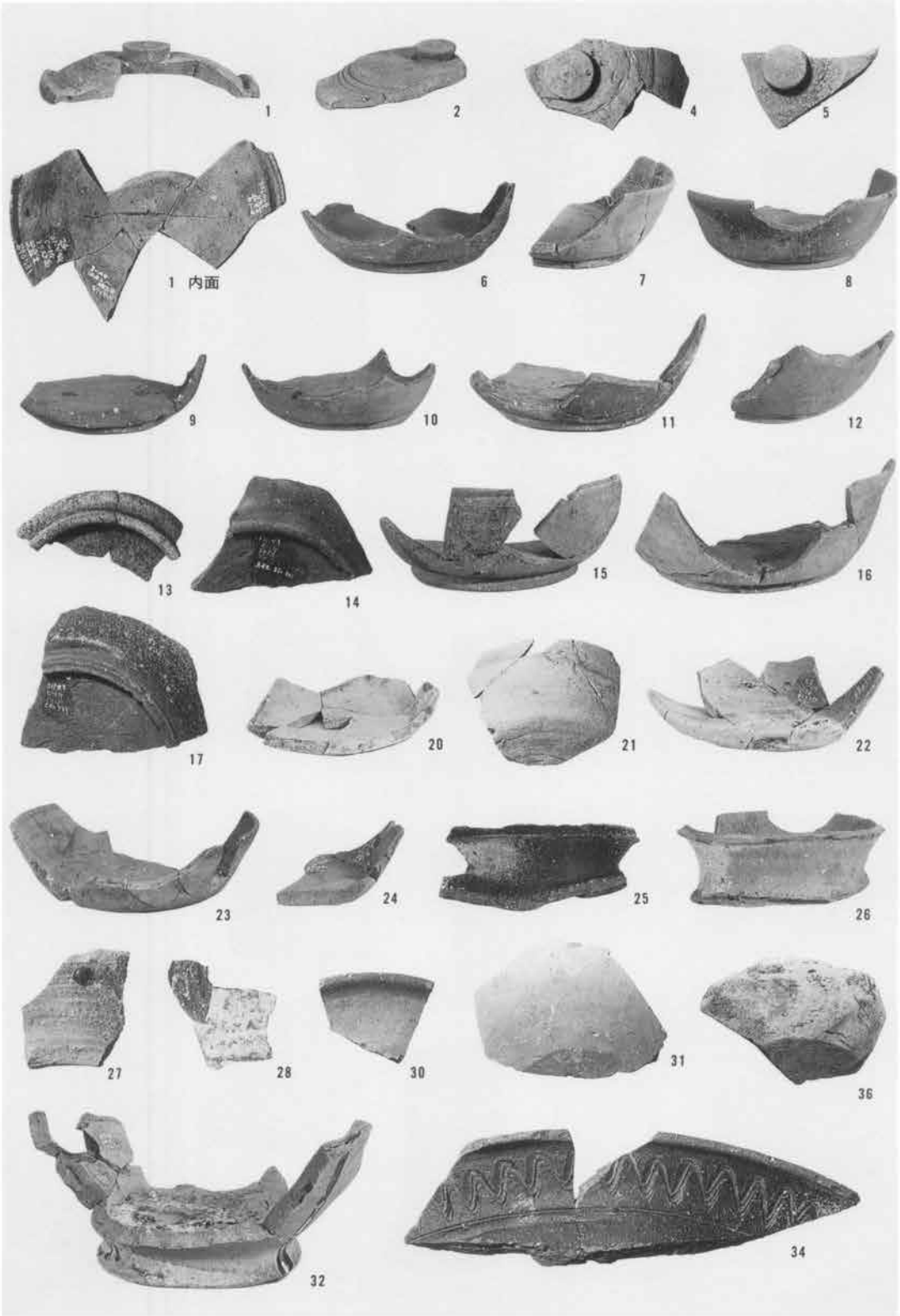
第１調査区Ｃ～Ｅグリッド近景（南より撮影）

図第１調査区Ｃ～Ｅグリッド炉跡検出状況（北より撮影）

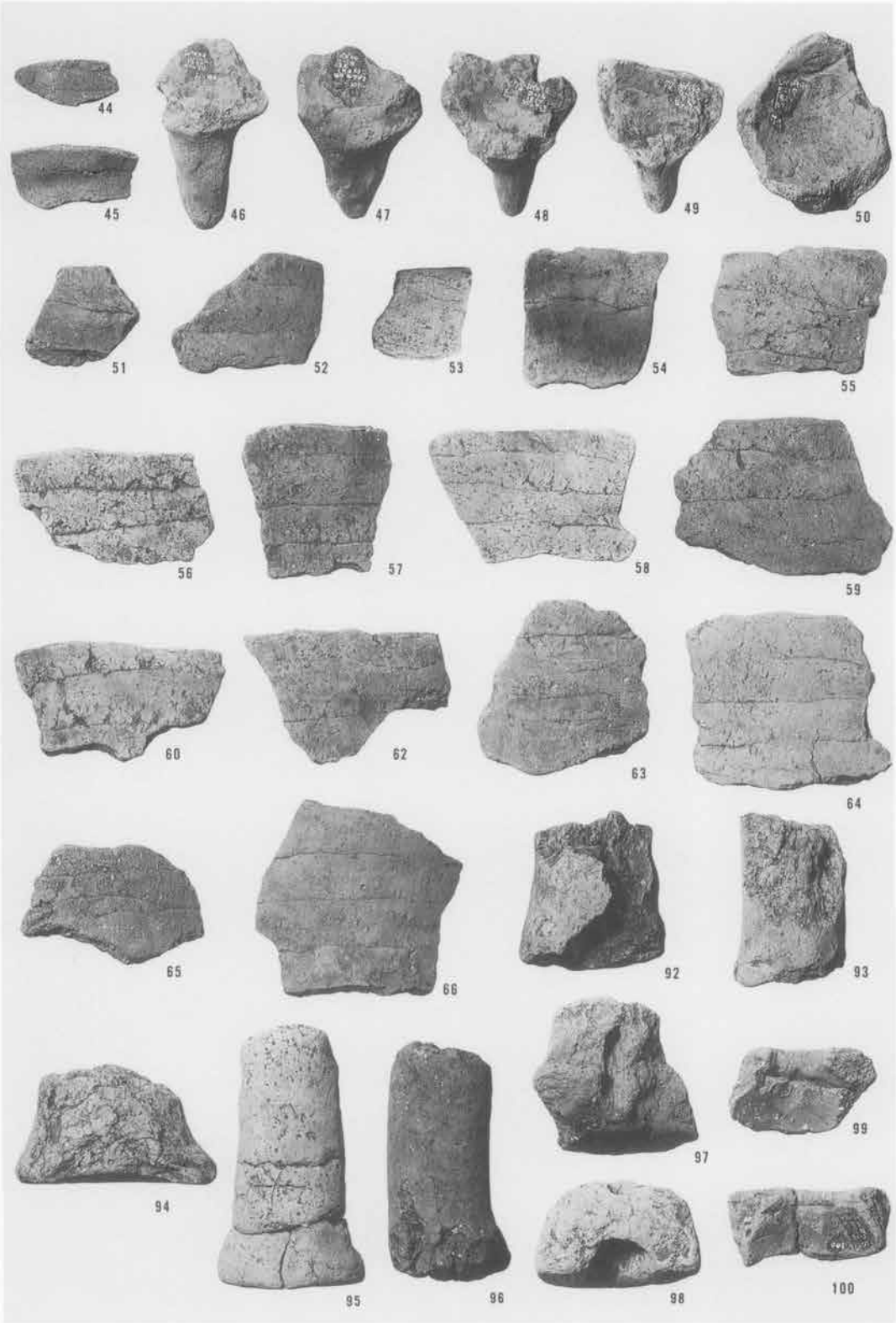
図版4

第１調査区Ｄ，Ｅグリッド炉跡検出状況（西より撮影）

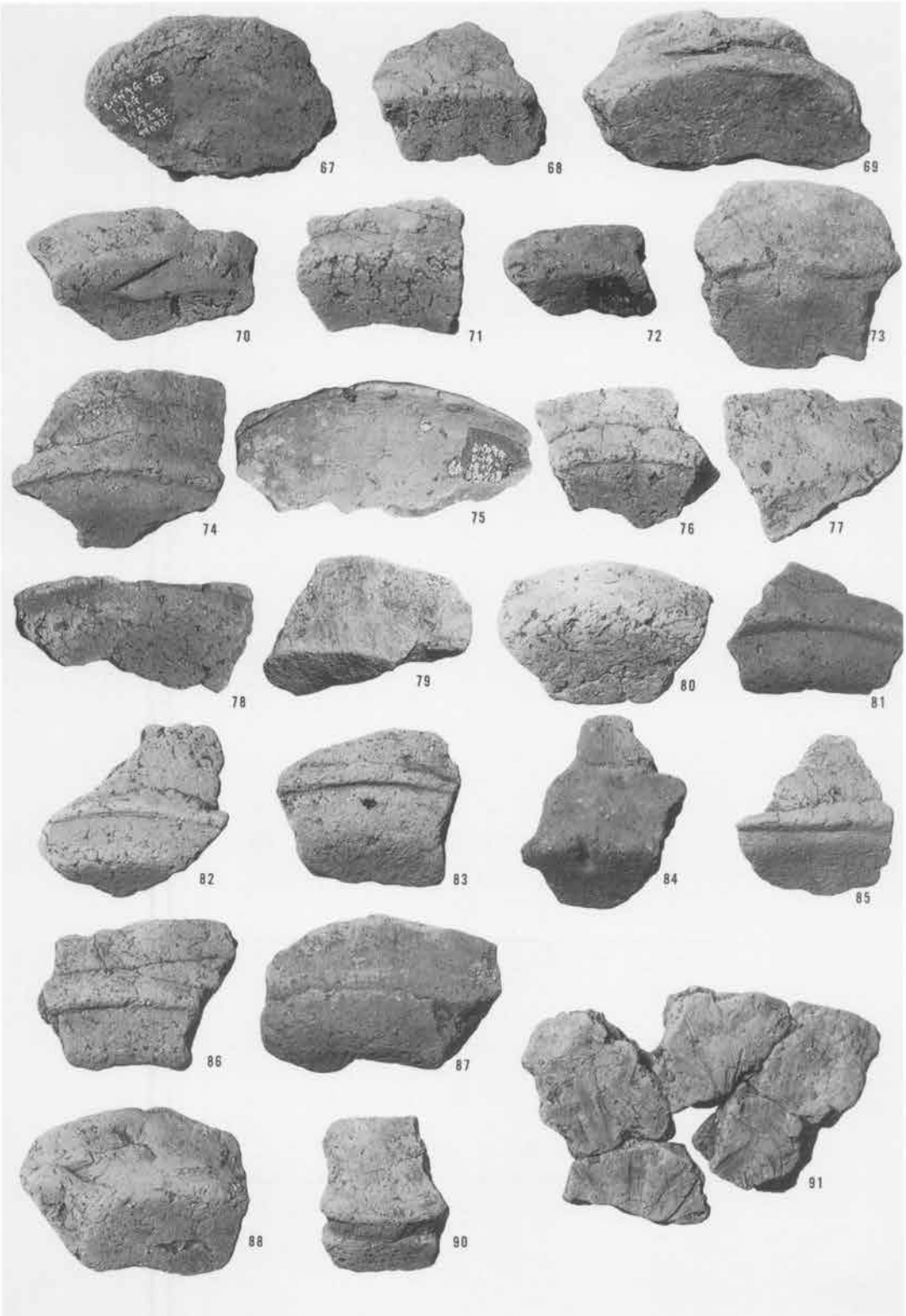
第１調査区Ｄライン土層堆積状況（南より撮影）



図版5　出土遺物（1）〔須恵器、土師器〕



図版6　出土遺物（2）〔製塩土器、支脚〕



図版7　出土遺物（3）〔製塩土器平底底部〕

滝・柴垣海岸G遺跡

一般国道249号交通安全施設等整備工事に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成3年3月20日　印刷
平成3年3月30日　発行

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉4丁目133番地
〒921 電話（0762）43－7692番(代)

印　　刷　㈱橋本確文堂

©石川県立埋蔵文化財センター　1991